

日本海軍の対英米政策・戦略を繙く

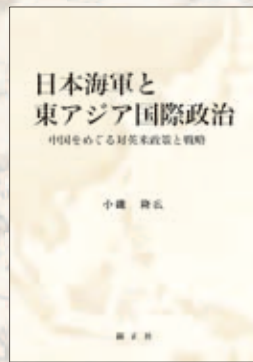
日本海軍と

東アジア国際政治

— 中国をめぐる対英米政策と戦略 —

小磯 隆広 著

満州事変後から太平洋戦争の開戦に至るまで、日本海軍が東アジア情勢との関係において、英米の動向をいかに認識・観測し、いかなる政策と戦略を講じようとしたのか。当該期の日本外交史・軍事史研究を深化させ、歴史学的検証により、昭和戦前期における日本の対外関係に海軍が果たした役割を解明する。



定価：本体4,200円(税別)
令和2年5月発行
A5判・上製・カバー装・320頁
ISBN978-4-7646-0352-3

目次抄

序章 本書の課題と問題の限定

第一節 課題設定理由
第二節 研究史の整理
第三節 問題の限定

第四節 本書の構成

第一章 中国問題をめぐる日本海軍の対英観と政策

— 一九三五～三八年 —

第一節 日中戦争以前の対英観と政策

第二節 日中戦争初期の対英観と政策

第三節 日中戦争の長期化と対英工作

第二章 門戸開放・機会均等をめぐる日本海軍の対米観と政策 — 一九三五～三九年 —

第一節 対米観と政策の転換

第二節 日中戦争の拡大と対米関係

第三節 日米通商航海条約廃棄通告と第二次世界大戦への対応

第三章 上海租界をめぐる日本海軍の対英米政策

— 一九三五～四〇年 —

第二節 日中戦争直前の上海租界対策

第一節 日中戦争の勃発と上海租界問題の「対英」問題化

第二節 第二次世界大戦の勃発と上海租界問題の「対米」問題化

第四節 上海租界問題をめぐる日米海軍の対立

第四章 南洋群島と海南島を中心とする日本海軍の対英米戦略 — 一九三六～四〇年 —

第一節 海南島を中心とする対英戦略の展開

第二節 南洋群島を中心とする対米戦略の展開

第三節 海南島の対英米軍事拠点化

第五章 一九四一年日米交渉と海南島駐留問題

第一節 出先の逸脱による中国駐兵問題をめぐる混乱

第二節 中国駐兵問題をめぐる海軍と外務省の認識の一致

第三節 海南島への長期駐留とアメリカの対日批判

終章 本書の結論と残された課題

参考文献一覧

索引

[ご注文・お問い合わせ]

錦正社

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町544-6 URL <https://kinseisha.jp/>
電話 03(5261)2891 FAX03(5261)2892

注文書	書店様番線	注文数	日本海軍と東アジア国際政治 定価：本体 4,200 円(税別) ISBN978-4-7646-0352-3
		冊	
		お名前	
		〒 ご住所	
		お電話	